

○ 第四次葉山町総合計画基本構想（案）に対するパブリックコメントの実施結果について（速報）

N0	頁	いただいた意見
(序論)		
第2章 計画の基本姿勢		
1	2	「社会動向を的確に反映した計画」とあるが、第四次総合計画において、最も重視しなければならない社会動向は何か。計画全体を読んでもピンとこない。
2	2	「めざす姿、目標が明確で、だれにでも分かりやすく、使いやすい計画」とあるが、目指す姿も基本目標も明確ではない。目標が明確でないから取り組みの方向も結果として、総花的になっている。「目標」の意味が理解されていないのではないかと、10年間を見据えて、何を大目標にするのか、定量的な表現が必要。目標を明確にすれば、その達成に必要な「取り組みの方向」を絞り込んで考えることができる。また、その取組で実現するか、真剣に検討が必要になってくる。
3	2	「町民と行政が適切な役割分担」とあるが、「役割分担」ではなく、「同一の目線で相互に協力し合う」とすべき。「協働」の意義は、町民と行政が、課題を共有し相互に協力し合うことによって、町行政の実効性と持続可能性を高めることである。「役割分担」はその方法のひとつと考える。
4	2	「町民と協働できる計画」として「協働」について「町民と行政が適切な役割分担のもと、お互いができることを行い、できないことを補い合う「補完性の原則」を尊重…」とあるが、「協働」の意味についてはさまざまな理解があり、葉山町として早計に意味づけられないほうが懸命かと思う。
第3章 計画の構成と期間		
5	3	「基本構想」は町の将来像と町づくりの理念、「基本計画」は理念に基づく町づくり基本計画と基本目標、「実施計画」は基本計画を事業施策に落とし込んだものであることを明確に定義した方がいい。
6	3	「基本構想」と「基本計画」は合体して一つでよいのではないかと。取り組む内容がよく分からない「基本構想」だけ独立させても、絵にかいた餅ではないか。
7	3	「基本構想」本文中の「取り組みの方向」とは何を意図しているのか。「主要な取組み」でよいのではないかと。
8	3	「基本計画」本文中に「基本目標」を実現するために取り組む内容…とあるが、「基本目標」が抽象的で「目標」になっておらず、この目標の実現のための取組みといってもピンとずれず。さらに、「そのめざす姿を明らかにする」とあるが、これは手段目標のことを言っているのか。6年後、10年後の「目標値」をしっかりと捉えることが「基本計画」の重要ポイントである。
9	4	「基本計画」の計画期間は、首長任期に同調させる方が現実的であり、首長選の年度を初年度とした4年とするのが望ましい(任期満了以外の選挙があった場合は、その年度を初年度とした基本計画とする)。同様に「実施計画」も、首長任期に同調させ、2年または4年にする。
10	4	「基本構想」の期間が10年は短い。「基本計画」は10年でもよいが、10年しか使えない構想が必要なのか疑問だ。人口問題やそれに基づく税収、収支、公共施設のリストラなどなど10年以上先まで予測出来ることは多い。少なくとも構想は20年～30年単位で考えるべきだ。途中で定期的に修正を行えば問題はない。
11	4	「基本構想」については実効性が高まるため、8年間(平成27年度～平成34年度)の計画期間とすることが望ましい。また、「基本計画」については、前期を4年間、後期を4年間とするべき。併せて「実施計画」については、2年間ずつとするべき。
12	4	第1期基本計画の期間が6年は長すぎる。町長の在任期間に合わせているのか。10年間の長期スパンでの取り組みであるから中間時点での進捗目標が必要である。第1期が6年で前期3年、後期3年と分けるが、基本計画策定時点で、各期末の目標値が示されていることが重要。10年間の期間の前期、後期それぞれの目標値が、現時点で設定されなければならない。ただし、計画のローリング過程で見直しはありうる。
(基本構想)		
第1章 基本理念		
13	5	本文中に「静かで品のある落ち着いたまち」というイメージが定着しているまちとあるが、何かデータがあるか。また、「静かで品のある落ち着いたまち」と「元気と活気のあるまちを創造していく必要」は整合するのか。併せて「名士」のまちを維持するのか。
14	5	「暮らしを守る」葉山の本文について、自然環境に囲まれている(恵まれている)というだけでは不十分。自然環境は(アクティブに)守らなければ守られないことを付記すべき。「豊かな自然環境を守りつつ、相互の支え合いと心がけによって、だれもが生き生きと自分らしく、安心したここのよい生活を送ることのできる「暮らしを守る」葉山をめざす。」とすることを提案する。
15	5	「街が躍動する」葉山では抽象的。「活力を創造する」葉山と表現することを提案する。本文を「快適で住みやすい地域の中で、豊かな時間を過ごせて、元気と活気にあふれた生活が展開される「活力を創造する」葉山をめざす。」とすることを提案する。
16	5・6	「理念」と「将来像」の違いがよく判らない。説明が欲しい。 (例) 理念:いつになっても変わらず求めていきたいこと。 将来像:将来(今回は6年後と10年後)こうなっていたいというありたい姿・ビジョン
第2章 まちの将来像		
17	6	「ひと・暮らし・まちが輝く」、「心のふるさと 葉山」とあるが、抽象的に過ぎる。将来像はもっとクリアでないと取り組みはずれてくる。「文化のまち」と謳っていた第三次総合計画の方が分かりやすい。自然など外形的なイメージはあるが、ソフトが見えない。
18	6	“輝く”のような抽象的概念ではイメージがつかめない。「協働」によるまちづくりを目指すならば「交流」ははずせないと思う。「海とみどりを守り、ひとが活きる交流のまち葉山」ではどうか。

NO	頁	いただいた意見
第3章 将来の人口		
19	7	「第3章 将来の人口」は、「第2章 まちの将来像」の補足説明としてはどうか。また、人口推定値を出した根拠説明がほしい。
20	7	「人口計画」の意味が示されていない。人口3万人に肯定的意味を持たせたい。「人口3万人規模のまちという特性を活かしたまちづくりを進めます」を加えたい。「地域主体、地域個性、協働、住民自治(住民と行政が近い関係で連携できる地域サイズ)が発揮できる適正規模を人口3万人ととらえました」を加えたい。
21	7	この章の位置づけが不分明である。第2章「まちの将来像」と結び付けて一本化し、目指す人口をもっと浮き彫りにしてはどうか。「人口3万人が維持されている」ことを「まちの将来像」に捉えてはどうか。自然減を考えると、人口流入策が必然的に重要になってくる。
第4章 基本目標		
22	8	「基本目標」は「基本計画」に織り込む内容であり、「基本構想」から除くべきだと考える。
23	8	これらは正確な意味では、目標とは言えない。将来像・ありたい姿(ビジョン)の一断面に過ぎない。どの項目にも、同じような抽象的な言葉が見られ、どう違うのか、イメージできない。言葉を定義するか、具体的な言葉(5W2H)に置きなおす必要がある。 目標は、ゴールの状態を示すもので、基本的に定量化されなければならない。イメージだけでは、結局実行に結びつかない。どんな指標をとるかが、ポイントになる。 11の基本目標はお互いに二律背反で、並立が疑わしい項目が乱立している。 これらを通じて、最大実現したいことは何なのか。「第3章 将来の人口」において、「推計を上回る人口の確保を目指す」とあり、具体的な大目標をここに捉えるのが適当ではないかと思われる。そのためには、転出者を上回る転入者、子どもを育てやすい制度(税金を含めて)、環境の整備、発展により「葉山に住みたい、住み続けたい」というマインドを作り上げることが、行政の最重要な責務となる。 また、人口が維持されなければ、歳入もおぼつかない。各種施策は絵に描いた餅に終わる。目標人口の数値によって、行政課題や取組内容も難易度も大きく変わってくる。挑戦的な目標を掲げるか、安易な目標にするか、行政主体の本気度が試される。
24	8	「第4章 基本目標」を見ると、その図は役場の組織と同じに見える。基本理念が先にあるのではなく、役場の組織力学が先にあるように感じる。役場の組織図の延長に作成された10年間の基本理念は、その作成基本方針自体が間違っている。あるべき基本理念によって役場内の仕事も組織も人事も変化・対応させるのが社会の常識である。読みようによっては役場内組織防衛にも見える。このような基本理念作成のため、新しい発想がなく、広い視野が感じられないのだと思う。町長には基本理念作成に強いリーダーシップを期待したい。もっと時間をかけてあるべき基本理念を作成するべきである。
25	8	「基本目標4 一人ひとりが大切にされ、自立し、健康で生き生きと暮らしているまち」とあるが、まず、町自身が町民一人ひとりを大切に、なおかつ町民がお互いに大切にしよう仕向ける施策が必要と考える。また、「自立」は高齢者を想定していると思われるが、何を指標にするか不明である。
26	8	「基本目標7 だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち」とあるが、「住みやすさ」「暮らしやすさ」とは、どういう条件なのか。年代別など層別の調査が必須であると考えます。
27	8	「基本目標10 町民と行政の中にお互いを支えあい、情報の連携ができていくまち」とあるが、ただ依存しあうだけではなく、連携の仕組み、決定のルールなどがしっかり確立することが重要である。
28	8	「基本目標11 常に町民の満足・納得度の高い行政サービスが提供されているまち」とあるが、行政の最大の関心でなければならない町民満足度を何によって知るのが不明。定期的な「町民満足度調査」の実施が不可欠であり、そうすることで取組み課題の優先順位もおのずと明らかになる。
第5章 施策の大綱		
1(取組みの方向)学校教育		
29	9	本文中に「子どもの郷土愛が育まれる」という表現を入れてはどうか。
30	9	潜在的な地域資源は多いと思われるが、その実態を把握しているか(一時期、人材の自主登録制度があったが、やめた経緯が分からない)また、学校での「学力」との違いはあるのか。 「豊かな自己実現力」が果たしたかどうか、どんな指標で見ると？ 仮に、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」で分解した場合でも の指標は難しい。「...きめ細かな教育」という手段目標となるもやむを得ないと思われる。
2(取組みの方向)生涯学習・生涯スポーツ・文化・交流・人権・平和		
31	9	若い人からお年寄りまで、「2(取組みの方向)生涯学習・生涯スポーツ・文化・交流・人権・平和」を浸透させてほしい。
32	9	本文中に「運動」や「芸術・文化活動」に加え、「また、「社会活動」や「環境活動」も盛んに行われています」という表現を入れたい。
33	9	「心身ともに豊かに暮らす」には、経済的なレベルや、勤務先での勤労意欲、家族関係、人間関係など多岐な要因があり、町が用意する学びや交流の機会だけでどこまで満たせるか。「学び、交流する機会が多い」としたらどうか。「人権・平和」と記入されているが、説明文では何も示されていない。学べる場の現状は趣味の会レベルである。町民がどんな場や機会を望んでいるのか、フリーアンサーで調査が必要ではないか。また、図書館などの位置づけを見直した方がよい。
3(取組みの方向)子育て		
34	10	「子育てを地域のみんなで支える中で、子どもがのびのび育っている」とあるが、具体的なイメージはあるか。また、「子育て支援サービスの充実」とあるが、町としての一番の取組みは何か。

NO	頁	いただいた意見
4(取り組みの方向)保健		
35	11	特定健診を近隣市医療機関でも受けられる以外にどんな策があるのか。
5(取り組みの方向)医療		
36	11	本文中に「町内や近隣市の医療機関との連携強化」とあるが、連携の内容はどのようなことを想定しているのか。増大する医療費とそれに伴う保険料の増大を食い止める策にも焦点を当てるべきである。また、利用者だけでなく、医療機関の医療報酬申請の厳格チェックが必要(不要な薬の処方など)と考える。
6(取り組みの方向)福祉		
37	11	本文中に「町民の自発的な福祉活動」とあるが、町としてどのような支援が想定されるのか。
38	11	将来必ず訪れる「高齢化社会」に対する取り組みが見当たらない。これでは安心して葉山に住み続けるモチベーションが持てない。ただ単に「高齢者」とするのではなくもっと具体的な表現にするべきではないか。例えば“一人でも心豊かに住み続けられる”等。また、「老々介護」、「生活困窮者」対策も必要。「障害児・者」も入れて“弱者にやさしいまち、すべての人が安心して暮らしている”としてはどうか。
7(取り組みの方向)緑化推進		
39	12	本文中に「さまざまな緑を大切に守り、育てる取り組みを町民とともに進める」とあるが、どのような目標が考えられるか。
40	12	市街化区域の緑がどんどん減っている。「家庭や地域の身近な緑」を「住宅地や私有地などの身近な緑」とより踏み込んだ表現にしてほしい。
8(取り組みの方向)環境共生		
41	12	本文中に「資源循環型社会の実現」、「ごみの資源化・減量化」、「安定的なごみ処理体制の確保」とあるが、資源化・減量化の大きな目標値は示すべきと考える。また、現状の委託処理を続けるのか、若しくは自前の施設を用意するのか、10年間の総合計画にビジョンを掲げるべきである。
42	12	“環境負荷の低減”だけではキレイ事すぎる。これに「処理コストの削減」が伴っていかなければ町にとっての実効的なメリットがない。“ごみ処理費を削減することも目標とします”といった表現を入れるべきではないか。また、「環境負荷の低いエネルギーの普及促進や有効活用」も抽象的である。“導入支援”、“インフラ(制度)構築”、“行政が率先して採用”などより踏み込んだ表現をしてほしい。
9(取り組みの方向)水環境		
43	12	(下水道や浄化槽による)「生活排水の処理」だけでなく、(ごみや生活排水などの)「川の汚染を避ける生活者への啓発を進めます」の言及が必要ではないか。「町民協働によるビーチクリーンやリバークリーンを推進します」または、「町民と共に川・海の浄化に努めます」という表現を入れてほしい。
10(取り組みの方向)消防・救急		
44	12	本文を「…資機材等の計画的な整備を図るとともに…」を「…資機材等の計画的な整備ときめ細かい地区対策を図るとともに…」としてほしい。
11(取り組みの方向)防災		
45	13	「自助」・「共助」・「公助」による取り組みや「ハード・ソフトの両面から防災・減災対策の推進」とあるが、具体性が見えない。
12(取り組みの方向)防犯・交通安全・相談		
46	13	何をどれだけ減らすかの目標の設定が必要と考える。
13(取り組みの方向)土地利用		
47	14	「魅力あるまちづくり」とあるが、“魅力”を何によって出すのかが不明である。
48	14	イメージが先行して実態が伴っていないのが実情。「緑や環境文化を軽視するような開発があれば、より厳しい対応を図ります」という表現を入れてはどうか。また、「都市計画マスタープラン」に記載されている土地利用方針や(施行から十年以上も改定されていない)葉山町まちづくり条例などの計画・制度を見直します」という表現を入れてはどうか。
14(取り組みの方向)居住環境		
49	14	(取り組みの方向)「やすらぎとうるおいを感じることができる空間がある」の中に、「騒音のない静かな居住空間」を追加するべきである。
50	14	居住環境を公園と川の水質だけでは語れないのではないか。
51	14	個人の宅地そのものが住居環境になることを示したいと考える。例えば、「個人の宅地や私有地であっても、周辺環境や地域特性を乱さない配慮が必要です」というような表現を入れてはどうか。

NO	頁	いただいた意見
15(取り組みの方向)道路環境		
52	14	本文に「都市計画道路については、長期にわたり未着手になっている区間については必要性等の検証を行い、方針の見直しを行います(ました)」を入れてはどうか。
16(取り組みの方向)公共交通環境		
53	14	本文中に「だれもが利用しやすく、安心かつ快適に…」とあるが、「だれもが」は美辞麗句ではないか。利用する時間帯も、手段も異なる。どこに重点を置くかを考える必要がある。優先順位は通勤者か高齢者か、子どもたちか。町としては、具体的に何に取り組むのか？
54	14	“高齢化社会を見据えた公共交通環境の整備”という趣旨を入れてはどうか。
17(取り組みの方向)町内産業		
55	15	「17(取り組みの方向)町内産業」の達成された姿を現案の「地域産業が「葉山」というブランド力と結びつきながら、活発に活動している」から「地域産業が「葉山」というブランド力を活かし、それを町民みんなで育てるという意識」としたい。本文中の「葉山を訪れる人が楽しく買い物ができる環境づくり」は「18(取り組みの方向)観光振興」で整理してはどうか。また、地産地消についての言及がない。
56	15	取り組み内容が希薄である。具体的な販売促進策を記述するべき。
18(取り組みの方向)観光振興		
57	15	葉山町は心地よい時間と空間が売りである。「おいしい飲食店やおしゃれな衣料・雑貨店、新鮮な地産品が並ぶ市など訪れる人が心地よい時間が楽しめる環境づくり」としたらどうか。
19(取り組みの方向)コミュニティ・協働		
58	16	本文中の表現を「行政事業への協力や地域課題の解決に向けて、町内会(自治会)や多様な主体が積極的に取り組むことで、地域のつながりや支えあいの意識がより高まります」とした方がスッキリするのではないか。
59	16	本文中に「主語」がないが、町は、町内会活動にどうかかわっていくのか。「多様な主体が連携・協力しながら、行政事業への協力や地域課題の解決に向けて主体的に取り組むまちづくりを進める」とは、ややもすれば、町の責任転嫁に映る。むしろ、町が、町内活動や地域課題にどんな協力をしようとするのか、が求められている。地域活動に合わせて、職員がその中に積極的に入れ込む活動が必要であって、職員の休日優先ではだめ。
20(取り組みの方向)行財政運営		
60	16	「基本目標11 常に町民の満足度、納得度の高い行政サービスが提供されているまち」に基づく(取り組みの方向)については、各部を越えた連携強化に努め、実効に結びつく運営がなされるよう要望する。
61	16	本文中に「将来の老朽化する公共インフラ、人口減による税収減、扶助費増を見据え、計画的な(基金・町債の運用を含む)財源確保策を図り、持続可能な行財政運営を進めます」という表現を入れたらどうか。
62	16	「職員の能力が最大限に発揮できていて、社会の変化にも柔軟に対応できる効率的な行財政運営が行われている」とあるが、最大限の能力発揮をどのように測るのか。「評価制度」において、職員の評価点がある程度公表されるか、「町民満足度」調査の結果が、一定評価を越えるかの判定基準がなければならない。また、個々人の能力レベル向上以上に、町民にとって重要なことは「職員が何に取り組んでいるか、何を成し遂げたか」にあり、それは町の幹部がしっかりした目標を与えているかどうかにかかっている。幹部のマネジメント能力向上が重要であると考え。効率的な行財政運営が行われているかどうかは、プライマリーバランスの目標的確性と達成率によって判定される。これできていなければ、職員の能力が発揮されなかったと判定されことになる。ここでも町民の職員に対する満足度調査は必須となると考える。
第6章 土地利用基本構想		
63	17～21	「第6章 土地利用基本構想」の説明部分は、「第2章 まちの将来像」で述べ、別章にする必要はないと考える。
64	17	市街化区域の自然的土地利用が17.7%(緑被率13%)とは、決して誇れるものではないと考える。これで「葉山町は自然環境に恵まれている」とは謳えない。政策的な努力が必要である。また、「市街化区域の緑化に努める」と入れるべき。
65	18	「県道311号線(鎌倉葉山線)から西側」の意味がよく分からない。国道134号線から西側を「海岸地域」とするのはあまりに大雑把過ぎる(間違っている)。下小路、木下、向原、牛ヶ谷戸、菖蒲沢は「海岸地域」とは異なる地域特性を持っている。「葉山町景観計画」では、「旧保養地・住宅景観エリア」としてくくっている(緑多い閑静な低層住宅景観が維持されている)。「海岸交流拠点」と「旧保養地・住宅景観エリア」に分けて表現するべきである。その際、「各地からこの地域を訪れる人々が楽しく集い交流する環境を整え、活気と」の表現は、「海岸交流拠点」の方に入れてはどうか。「旧保養地・住宅景観エリア」は“ゆったりした、うるおいと風格ある土地利用”としてはどうか。
66	18	「2土地利用の基本方向」では、葉山町を「海岸地域」、「山手地域」、「緑陰地域」の3つの地域に分け、特性に応じた土地利用を進めることが書かれている。このうち、「海岸地域」は、「自然調和した良好な住環境を基本としながら、各地からこの地域を訪れる人々が楽しく集い交流する環境を整え…」とある。しかし「海岸地域」とくらわれている国道134号線沿いの下小路、木下、向原、牛ヶ谷戸、菖蒲沢については、「葉山町景観計画」中の「葉山らしさを実感できる住宅景観の景観特性例」においては、「旧保養地・住宅景観エリア」に分けられ、「緑多い閑静な住宅景観」とされている。これらの地域は、葉山町の中でも、例えば東京の山の手に当たる地域で、住宅地域の中心地とも言える。したがって、これらの地域は「海岸地域」と分け、「山手地域」とする方が、歴史的にも生活上からも自然のように思われる。
67	20・21	「海の交流拠点」を「海の交流幹線軸」に重ねてはどうか。「複合型住宅地ゾーン」から「海」の存在を外す。また、長柄の「市街地形成軸」の意味がよく分からない。「新市街地創造軸(新ロイヤルロード)」として南郷の「地域交流拠点」までの沿道に並木を植えてはどうか。

NO	頁	いただいた意見
全体事項		
68	全体	全般として良くできている。
69	全体	「基本構想」にある今後の取り組みには、多額の費用がどうしてもかかる。少子高齢化社会において、葉山町のような住民税に頼っている町は、今後立ち行かなくなるのは明らかである。行政改革による歳出改革も重要であるが、これには限界である。環境を最低限守りつつ、新しい住民に来てもらえるような、一定の開発も受け入れ、税収の増加を図ることも必要と考える。空き家対策も考えなければならない。
70	全体	「基本構想」には、農業や観光による具体的取組みについて記載され、評価できるが、更なる歳入を増やすための施策を検討が必要だと考える。医療、農業、観光、IT等、産業育成を推進することにより、歳入を増やして、子どもたちへの教育の充実や、継続して安全・安心を守るための投資ができる。難しい問題だと思うが、町内の事業者や有識者による知恵を結集し、議論し、深掘した産業政策、歳入改革をまとめ、基本構想に盛り込んでいただきたい。
71	全体	基本構想は町の将来像を示し、それを実現していくための町づくりの理念、方向性を示す首長により変わらない普遍的なものであり、ここに基本目標など織り込むべきではないのではないか。
72	全体	第三次総合計画の総括、評価、そこからの課題が明示されていない。第三次総合計画の総括、評価と課題を、早いページに記載すること。総合計画は、基本的につながりを持っていいなければならない。改革を行うにしても、前次計画の評価は必須。なぜ、その結果になったかのCHECKが無くては同じことを繰り返すのみ。PDCAで進行管理ができる計画を目指しているのだから、本計画そのものがそれを体現していなければならない。
73	全体	平成12年に「第三次葉山町総合計画」まちの将来像「海とみどりにひろがる交流文化のまち葉山」の実現をめざして、「青い海と緑の丘のある美しいまち」、「文化をはぐくむうるおい、ふれあいのまち」、「安全で安心して暮らせるまち」、「住民が参加する自治のまち」の4つの基本目標のもと、各種施策に取り組み、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきた結果はどうだったのか？達成度は？評価は？「住民が参加する自治のまち」とあるに、なぜ住民に達成度、評価を直接聞かないのか？税金と人手と時間を使った「第三次葉山町総合計画」はやりっぱなしで第四次葉山町総合計画に進むのか？第四次葉山町総合計画の出発点が間違っていると思う。
74	全体	「基本構想」といながら事業方針、その方向の羅列である。現状と将来予測しうる葉山の姿を基に、どのような葉山を目指すかという目標が無い。書かれていることは、対処であり、理念・政策ではない。そのため、戦略がなく、当然戦略目標がない(重点をどこに定めるか、優先順位がない)将来の葉山が極めて不明確で、これに続く計画実施はどうにでも出来るのではないのか。そもそも基本理念に書かれていることは常時行政が行っていることである。わざわざ基本理念と明記する内容と思えない。
75	全体	町民ニーズが見えない。現在の葉山のどのような問題・課題を解決するための個々の計画なのかがよく分からない。町民自身が望んでいることも不明のままなので、町当局の独りよがりの政策になっていないか。今までの、いろいろな局面で得たデータを併記して、それぞれの計画項目が必要な根拠を明示すべき。
76	全体	計画実施の主体がやや不明確。この総合計画は誰に読んでもらう目的で作成されているのか、職員向けか、町民向けか、今回は双方のようだが、読んでいる立場の人が、自分たちが何をしなければならないかが分かる表現が必要。役場はこうする、町民はこうしてほしい等
77	全体	財源の捻出についての考え方が示されていない。「絵にかいた餅」にならないためには、必須の項目である。職員も町民も「覚悟」が必要なのに、それに触れないのは無責任。基本的にどうやって捻出するのか、の構想が決定的にかけている。この計画を実現するには、財政規模は現状維持か、縮小か、増大か、それぞれどの程度か、どうやって増減させようとするのかを概略でも明示すべき。
78	全体	町民との関係を進化させる政策がない。町の将来を考えるなら、町民との関係性をいかに進化・深化させるかが重要であるとする。その信頼関係があってはじめて総合計画は生きてくる。行政評価を、自分たちでやってお茶を濁すようなことで済ませない。 (例) 重要課題について、住民投票条例を確立する 行政評価を1年タクトで実施する「町民満足度調査」の実施 職員の能力不足を補うため、町民からインフラ等の異常通報を受け、早期に改善するシステムの確立など
79	全体	「総合計画」は、基本理念を町民と共有し、ここに住むことの幸せを実感できるような10年一区切りを創りあげていく、とても大事な事業である。そのためには、基本構想の理念を踏み込んで具体的に考えなくてはならない。それには、行政が住民に寄り添う姿勢をもっと示す必要があると考える。これまでの社会あるいは行政の当り前の事の進め方だったものとは違うやり方があるといい。同一の理念や価値やイメージを共有するという形で進めると人々は集まりやすいし、自分や家族、知り合いのこととして「他人任せ」にはできなくなるはずである。
80	9～16	「第5章 施策の大綱」の構成は、「基本構想」の定義から逸脱しないよう全面見直しが必要と考える(3つの基本理念毎に取り組む方向性を示し、「1 人・暮らし・街づくり編」及び「2. 行政運営編」の項目及び「基本目標」は除くべきだと考える)。